

A-35 濃縮大豆タンパク質と魚肉タンパク質の混合加工の栄養学的考察
大妻女大家政 ○後藤敏子 松葉憲子 吉田しげ子 坂本 清

目的 動物タンパク質の代替品としての市販濃縮大豆タンパク質(C.S.P.)の利用とくに栄養面から検討した。すなわちC.S.P.を冷凍魚肉すり身(F.P.)と配合比を変えて混合し、かまぼこメイキングとハンバーグの調理を試みた。これらの製品の官能試験、および白ネズミの成長試験、ならびに生体成分測定の結果について報告する。

方法 1. かまぼこ調製試験、官能試験：F.P.にC.S.P.をそれぞれ0, 3, 15, 30%混合調製し、官能試験を行った。2. ハンバーグ調理、官能試験：F.P.とC.S.P.をそれぞれ5:5, 7:3の混合比でハンバーグをつくり官能試験を行った。3. 栄養試験：白ネズミを用い、8%タンパク質レベルでC.S.P.飼料, 0.15%メチオニン添加C.S.P.飼料, F.P.とC.S.P.の混合飼料(85:15), 同(50:50), F.P.飼料による21日間の*ad libitum feeding*を行った。この結果体重増加, 摂食量, P.E.R., 肝臓キサンチンオキシダーゼ活性, 肝臓G.O.T., G.P.T.活性, 肝脂肪着度, 血清A/G比を測定した。さらに*single time feeding*後, 血中尿素濃度の測定も行った。

結果 1. かまぼこ官能試験の結果, 外観は魚肉のみが最良で, 味では3% C.S.P.添加が最良とされた。ハンバーグはF.P.とC.S.P., 5:5の混合比が良好とされた。2. 栄養試験：P.E.R.はF.P.飼料が最高で, C.S.P.飼料群は劣り, C.S.P.に対するメチオニン添加効果が認められた。肝臓キサンチンオキシダーゼ活性, G.O.T., G.P.T.活性は, C.S.P.飼料群がF.P.飼料群, メチオニン添加C.S.P.飼料群より低かった。メチオニン添加C.S.P.飼料群では軽度の肝脂肪着例が見られた。血清A/G比は, C.S.P.飼料群が他群に比べて低値を示した。一方血中尿素はC.S.P.飼料群で高い値を示した。